

2013. 2. 16

名ホールの響き
第4回

ミュンヘン、ヘルクレスザール

プログラム

世界の有名なホールで演奏された録音を聴きながら、その響きの妙を楽しんでいただくシリーズ「名ホールの響き」の第4回目は、ミュンヘンのヘルクレス（ヘラクレス）ザールを取り上げます。

5世紀に渡りバイエルンを統治したヴィッテルスバッハ家の本宮殿が“レジデンツ”で、博物館や宝物館等と共にヘルクレスザールもこの中にあります。ヘルクレスザールは19世紀初頭に建設されましたが、戦火で多くを失い、1953年修復工事を行って完成したのが現在のホールです。1270座席のシューボックス型で、ステージ左右に古代ヘラクレスを思わせるタペストリーが装飾された、美しく立派な内装。癖が無く、まとまりの良い自然な音は個々の楽器の良さを最大限に引き出してくれます。忘れられない名ホールのひとつと言って良いでしょう。

ミュンヘンには1985年に完成したもっと規模の大きなガスタイクホールがあり、今ではコンサートの主流がこちらに移っているのが残念ですが、今日はヘルクレスザールを本拠地としているバイエルン放送交響楽団を歴代の音楽監督、クーベリック、デイヴィスが指揮した演奏と、チェリビダツケ&ミュンヘン・フィルの演奏をお聴きいただきます。モーツァルトでは、現代オーボエの名手のひとり、インダーミューレの演奏を、また我が国の誇る名リート歌手、白井光子の、それぞれ若き日の演奏をお楽しみください。

カール・マリア・フォン・ウェーバー (1786~1826):

ピアノ協奏曲第2番変ホ長調 op.32 ~ 抜粋

ゲルハルト・オピッツ(ピアノ)

コリン・デイヴィス指揮バイエルン放送交響楽団

(1995.1.20 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive)

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904):

交響曲第9番ホ短調 op.95 “新世界から” ~ 第1楽章、第2楽章から、第4楽章

セルジユ・チェリビダツケ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

(1985.6.15 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive)

*** 休憩 ***

フーゴ・ヴォルフ (1860~1903):

歌曲 “改宗した女”

アルバン・ベルク (1885~1935):

歌曲 “うぐいす”

白井光子(メゾ・ソプラノ) / ハルトムート・ヘル(ピアノ)

(1976.9.24 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive ~ミュンヘン国際音楽コンクール受賞者記念演奏会~)

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791):

オーボエ協奏曲ハ長調 K.314 ~ 抜粋

トーマス・インダーミューレ(オーボエ)

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団

(1976.9.23 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive ~ミュンヘン国際音楽コンクール受賞者記念演奏会~)

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第2番ハ短調 “復活” ~ 第5楽章

エディット・マティス(ソプラノ) / ドリス・ゾッフエル(アルト)

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団 / バイエルン放送合唱団

(1977.4.14 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive)